

【はじめに】

1949年、戦後の荒廃した日本の再建を目指して、東京に日本で最初の青年会議所が設立され青年会議所運動の灯がともりました。その青年会議所運動が根付き始めた16年後の1965年に全国306番目の青年会議所として、地域の志溢れる青年たちが、明るい社会を創り上げようと情熱と気概をもって笠間市、西茨城郡（当時）に青年会議所が創立され本年で50年を迎えようとしています。その間、卓越した統率力を持ったリーダー達と200数十名のJAYCEEが苦楽を共にして笠間青年会議所を築いて来ました。今、我々が「奉仕・修練・友情」の三信条のもと、地域に根差したまちづくりや自己成長の機会、そして、老若男女、青年会議所に携わった人達との友情は、脈々と受け継がれてきた笠間青年会議所の伝統と絶えず邁進し続けた青年会議所運動の展開があったからこそ享受出来ることを忘れてはいけません。そして、先人たちから受け継いだ情熱と気概を持ち、恩義を未来へと恩送りすることこそが我々現役世代の責務であります。その伝統を受け継ぎ、地域づくりを牽引する組織として魅力ある地域づくりを推進していきましょう。

魅力ある地域づくりを推進するには、笠間青年会議所が何を求められ、何を必要とされているのか、49年間受け継がれてきた青年会議所運動を振り返りながら、変えるべきところは変え、守るべきところは守り、地域との連携を深め、私達が目指す明るい豊かな社会の実現のために、地域に根差した、そして、地域に頼られる存在として、2015年度の笠間青年会議所は共助・共創型の青年会議所運動を展開して行きたいと考えています。

【創立50周年を迎え、未来の礎となる年となれ】

「青年会議所は10年先を見据えて運動を展開してきた組織である。」

10年前の創立40周年時、その時のJAYCEEは何を考え、何を求め、未来の笠間青年会議所に何を託したのであろうか。我々はその想いを継承し未来に繋げる必要があります。

50周年式典は、これまで笠間青年会議所を築いて来られた先人たちへ感謝を伝える場であると共に、これから10年先を見据えたヴィジョンの発表の場でもあります。我々は、地域の人々から最も必要とされる組織として、その存在意義をもう一度再確認しなければなりません。10年後はもとより未来に続く青年会議所運動の礎となるべく1年間の運動に取り組んで行くことこそが50周年を迎える現役世代に課せられた課題なのです。

その課題に取り組むべく、先人から受け継いできた財産を最大限に活かし、創始の概を以て、地域に必要とされる事業の展開をしていきましょう。

### 【地域の宝は人、人財を育てる】

私は、地域力の根源の一つに中小企業が元気で魅力的であることが不可欠であると考えています。なぜなら、中小企業は経済を牽引する力であり、地域雇用を支えることによって、地域の安定をもたらし、活力のある地域づくりの実現に寄与するものであると考えているからです。そして、中小企業が元気で魅力的であるためには、中小企業の経営者であり、まだまだ成長期の我々青年が、経営学を学び、己の知識を共有し、研鑽を重ね、企業経営基盤を強化・確立することが必要なのです。その中から育まれた知識や知恵、友情を活かし、自己の成長と会社の成長に繋げ、革新を起こすことによって地域力の向上に繋がると確信しております。その学び舎の受け皿としての役割を笠間青年会議所が担っていきましょう。

笠間青年会議所では未来を見据え次世代の育成にも力を入れてきました。ちびっ子オセロキャラバンやかさまキッズモールなど、その時代に合わせた育成事業を展開して来ました。私も少年時代その事業の恩恵を受けた一人です。サッカーに明け暮れた少年時代を過ごし、その時、主戦場としていたサッカーリーグは笠間青年会議所が始めた事業だと入会してから知りました。その経験が今までの人生に於いて強い影響を受けています。

独立行政法人国立青少年教育振興機構がまとめた結果に依りますと、子どもの頃、「自然体験」、「地域活動」、「家族行事」などといった体験が多いほど、大人になってからの「規範意識」、「人間関係能力」、「文化的作法・教養」などの「体験の力」が高いことが明らかになっています。

今、青少年期に体験力に繋がる機会を創出することが地域の大人である私たちに求められております。様々な体験を多感な青少年期に経験してもらうことによって、今は原石である地域の青少年たちを、次世代の地域の宝とすべく育てて行く機会を積極的に創出していきましょう。

### 【人こそ力なり】

どんなに魅力的な事業を考えていても、一人では事業の展開は難しいものです。しかし、協力者が10人になれば貴方の考えている事業も計画となって進むでしょう。100人集まれば大きな力となり地域づくりの第一歩になるのは言うまでもありません。一人の能力は限りがあります。しかしながら、小さい力でも協力しあえば大きな力となるのです。笠間青年会議所にも言えることです。展開したい事業でも協力者や委員会メンバー、LOMメンバーが居なければ事業の成功はありえません。そのためには、青年会議所運動に共感してくれる輪を広げる必要があります。その輪を広げることこそが、地域

に根差した事業が成功する第一歩なのです。

2015年度の笠間青年会議所は50名余りのメンバーでスタートします。

会員拡大はシンプルです。まず、自分自身が青年会議所の魅力を確認し、その魅力を身近な仲間に伝えることです。それぞれが思う魅力は違うとしても、今、青年会議所に所属をしているのであれば、何かしらの魅力を感じているはずです。その魅力を語り、語った魅力を体験し直に感じて貰えれば自ずと青年会議所の仲間になりたいと思うはずです。

### 【地区委員会制】

2015年度は地区委員会制を復します。現在、観光や自然、人的など地域資源を活かした地域経営の時代と言われています。その地域資源を一番熟知しているのはその地域に住んでいる市民です。地域の発展は市民の声から。これが原則である以上、地区委員会が組織として、そして青年会議所が明るい豊かな社会づくりの担い手として、その声を拾い上げる必要があるのではないのでしょうか。そしてその声をまちづくりに繋げていくことが青年会議所運動の基本なのだと思います。その基本に立ち返り、積極的な地区委員会活動を展開していきましょう。

### 【笠間青年会議所のファンづくり】

笠間青年会議所は毎年素晴らしい事業を行ってきました。しかしながら、その事業が社会に認知されているかという疑問が残るところです。折角、地域のために事業を行ったとしても、その運動が認知されず、笠間青年会議所は何をしている組織なのか理解してもらえないのは残念なことです。意識的な広報活動を展開することに依って、知名度が上がり、協力・支援者が現れれば新しい考えが加わり組織の活性化に繋がることでしょう。

今、ホームページやSNSなど情報発信方法は多種多様です。便利な方法があるからこそ偏りがちになり、その情報コンテンツに頼りすぎるきらいがあるのも事実ではないでしょうか。2015年度の青年会議所運動の情報発信は、我々青年世代だけではなく、小さな子どもから高齢者まで老若男女、笠間市・桜川市約12万人全ての人々まで笠間青年会議所の運動が届くような情報発信の工夫をしていきましょう。

そして、笠間市・桜川市の人々に笠間青年会議所がどのような組織で、どのような運動をしているのか知ってもらえた時に、多くの笠間青年会議所ファンが現れるはずです。

### 【出向の意義を考える】

入会して以来、3度の茨城ブロック協議会出向、1度の日本青年会議所出向を経験させていただきました。4度の出向の内、3度をスタッフメンバーとして出向し、多くの事業に触れる機会と多くの学びの機会を得ることが出来ました。また、全国各地の

JAYCEE と膝を突き合わせ議論をし、事業を展開し、懇親を深める事によって何事にも変えられない友情が生まれたのは一生の宝です。正に出向とは、経験と友情が広がる手段なのです。

出向の意義とは何でしょうか。私はその経験を LOM に伝え LOM で活かしてこそ出向の意義があるのだと思います。2015年度に出向するメンバーには2016年度に笠間青年会議所の一つでも多くの経験を持ち帰り、そして、出向で得た自己の成長とその経験を笠間青年会議所へ還元することを意識しながら運動の展開をお願いします。

#### 【結びに】

人それぞれ青年会議所に入会した動機は違うかもしれませんが、青年会議所に求めているものも違うかもしれません。しかしながら、この時代に笠間青年会議所に入会し、出会い、青年会議所運動を共に邁進出来るのは奇跡的だと言えます。数年歳が離れていただけで出会う事がなかったかも知れないメンバー達と一緒に青年会議所運動を行える事は誇りです。だからこそ、笠間青年会議所に入会して良かったと思えるように、メンバー一人ひとりが切磋琢磨しながら、自己を高め、魅力ある組織に育て、地域から尊敬されるような組織となることが求められます。笠間市・桜川市にも数多くの青年団体や NPO などの非営利団体が存在する中、「青年会議所しかない時代」から「青年会議所もある時代」と言われて久しくなりますが、だからこそ「青年会議所だからできる時代」を我々世代が築く必要があるのです。

2015年度も引き続きメンバー一丸となって運動展開をしなければ、決して明るい豊かな社会づくりは達成しません。共に考え、共に歩き、共に語り合い、共に笑い、共に泣き、共に築いていきましょう。

\* 【結びに】の一文にコブクロ「永遠にともに」の歌詞を一部引用